

世界史 女性史 確認問題集

全19問 / 解答・解説は後半

名前

記事「世界史 女性史まとめ | 古代の民主政から女性参政権の広がりまで」を読んだあとに解く問題集です。答えを書いてから後半の解答・解説で確かめ、間違えた問題は解説にある記事の節を読み直してください。

第1部 一問一答

問いに当てはまる語句を答えなさい。

1 古代アテネで、成年男子市民が集まって国の方針を決めた最高の議決機関を何というか。

2 中国で、女兒の足を布で固く縛って成長をおさえた風習を何というか。

3 サティーの禁止を求める運動を進めたインドの社会改革者は誰か。

4 マリア＝テレジアの夫で、神聖ローマ皇帝の位についた人物は誰か。

5 オーストリア継承戦争でプロイセンが手に入れた地方はどこか。

6 1804年に制定され、法の前平等を定める一方で、妻は夫に従うと定めたフランスの民法典を何というか。

7 1848年のセネカ・フォールズの大会で採択された、独立宣言をまねた文書を何というか。

8 女性社会政治同盟に加わり、激しい手段で女性参政権を求めたイギリスの運動家たちは何と呼ばれたか。

9 1923年にトルコ共和国を建て、1924年にカリフ制を廃止した初代大統領は誰か。

10 国連が1975年を国際婦人年とした年に、第1回の世界女性会議が開かれた都市はどこか。

第2部 正誤問題

次の文ア～エのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

11 女性の君主について。

- ア 則天武后は690年に即位し、国号を周と改めた。
- イ エリザベス1世は、統一法などでイギリス国教会を確立した。
- ウ マリア＝テレジアは、1740年に神聖ローマ皇帝に即位した。
- エ エカチェリーナ2世は、クーデタで即位し、啓蒙専制君主として改革を進めた。

12 フランス革命期の女性について。

- ア 1789年10月、パンを求めるパリの女性たちを中心とする民衆がヴェルサイユへ行進した。
- イ 人権宣言のうたう「人」と「市民」の権利は、実際には男性を前提にしていた。
- ウ グージュは1791年に、女性にも男性と同じ権利を求める宣言を発表した。
- エ グージュは1792年に『女性の権利の擁護』を著し、イギリスの女性運動を指導した。

13 女性参政権の広がりについて。

- ア 国政で初めて女性の選挙権を認めたのは、1893年のニュージーランドである。
- イ イギリスでは、1918年の選挙法改正で男女平等の選挙権が実現した。
- ウ ドイツでは、1919年のヴァイマル憲法が男女平等の普通選挙を定めた。
- エ アメリカでは、1920年に憲法修正第19条が発効した。

14 第二次世界大戦後の女性の権利について。

- ア 国際連合憲章は、前文で男女の同権への信念をうたった。
- イ 世界人権宣言は、1948年に国連総会で採択された。
- ウ 女性差別撤廃条約は、1975年の国際婦人年に採択された。
- エ フランスでは、1944年に女性参政権が認められた。

第3部 年代の並べ替え

次のア～エを、古いものから年代順に並べなさい。

15 女性の君主に関する出来事を年代順に並べなさい。

- ア マリア＝テレジアがハプスブルク家の領土を相続した。
- イ エリザベス1世がイギリスで即位した。
- ウ エカチェリーナ2世がロシアで即位した。
- エ 則天武后が即位して国号を周とした。

16 女性の権利を求める動きを年代順に並べなさい。

- ア セネカ・フォールズで女性の権利の大会が開かれた。
- イ ウルストンクラフトが『女性の権利の擁護』を著した。
- ウ エメリン＝パンクハーストラが女性社会政治同盟を結成した。
- エ グーージュが女権宣言を発表した。

17 各国で女性参政権が認められた順に並べなさい。

- ア トルコで国政の女性参政権が認められた。
- イ ニュージーランドで女性参政権が認められた。
- ウ フランスで女性参政権が認められた。
- エ アメリカで憲法修正第19条が発効した。

第4部 論述問題

次の問いに答えなさい。字数は目安です。

18 第一次世界大戦の前後に、イギリスなどで女性参政権が認められた理由を、戦争の性格にふれながら120字程度で説明しなさい。

19 フランス革命が女性の権利に与えた影響とその限界を、人権宣言とナポレオン法典にふれながら120字程度で説明しなさい。

世界史 女性史 確認問題集 解答・解説

第1部 一問一答

1 民会

民会に参加できたのは成年男子市民だけで、女性・奴隷・在留外人は政治に加われませんでした。近代の民主主義と比べる問題でよく問われます。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／古代ギリシア・ローマ

2 纏足

唐末から五代のころに始まったとされ、宋代以後に広まりました。清末に廃止運動が起こり、太平天国もこれを禁止しました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／アジアの伝統社会

3 ラーム＝モーハン＝ローイ

サティーは1829年にイギリスのインド植民地政府によって法律で禁止されました。ただし、慣習を美徳とする考えはその後に残りました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／アジアの伝統社会

4 フランツ1世

マリア＝テレジアはハプスブルク家の領土を相続しましたが、皇帝位についたのは夫でした。「女帝」という呼び方とあわせて正誤問題で狙われます。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／女性の君主たち

5 シュレジエン

フリードリヒ2世がシュレジエンを占領して戦争が始まりました。マリア＝テレジアの相続は認められましたが、シュレジエンはプロイセンのものになりました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／女性の君主たち

6 ナポレオン法典

第213条で、夫は妻を保護し、妻は夫に従うと決めました。革命が掲げた平等が、家庭の中の夫婦の関係には及ばなかったことを示しています。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／フランス革命

7 所感の宣言

スタントンやモットらが呼びかけた大会で採択され、女性参政権の要求も盛り込まれました。アメリカの女性参政権運動の出発点とされます。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／19世紀

8 サフラジェット

1903年にエメリン＝パンクハーストらが結成した女性社会政治同盟は、演説の妨害やハンガーストライキなどで参政権を求めました。第一次世界大戦が始まると戦争に協力しました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／20世紀前半

9 ムスタファ＝ケマル

政教分離や文字改革などの近代化を進めました。女性参政権は1930年に市町村の選挙で、1934年に国政の選挙で認められました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／アジア・中東の近代化と女性

10 メキシコシティ

この会議で女性の地位を高めるための世界行動計画が採択されました。女性差別撤廃条約の採択（1979年）と年を区別しましょう。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／第二次世界大戦後

第2部 正誤問題

11 ウ

マリア＝テレジアは1740年にハプスブルク家の領土を相続しましたが、神聖ローマ皇帝の位についたのは夫のフランツ1世です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／女性の君主たち、入試で狙われるポイント

12 エ

『女性の権利の擁護』（1792年）はイギリスのウルストンクラフトの著作です。ゲージュはフランスの劇作家で、女権宣言を発表し、のちに処刑されました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／フランス革命、比べて覚える

13 イ

1918年に選挙権を得たのは30歳以上の女性で、男性は21歳以上でした。男女が同じ21歳以上になったのは1928年の改正です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／20世紀前半、入試で狙われるポイント

14 ウ

女性差別撤廃条約は1979年に国連総会で採択され、1981年に発効しました。1975年はメキシコシティで第1回世界女性会議が開かれた年です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／第二次世界大戦後

第3部 年代の並べ替え

15 エ→イ→ア→ウ

則天武后（690年）→エリザベス1世（1558年）→マリア＝テレジア（1740年）→エカチェリーナ2世（1762年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

16 エ→イ→ア→ウ

ゲージュの女権宣言（1791年）→『女性の権利の擁護』（1792年）→セネカ・フォールズの大会（1848年）→女性社会政治同盟（1903年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

17 イ→エ→ア→ウ

ニュージーランド（1893年）→アメリカ（1920年）→トルコ（1934年）→フランス（1944年）の順です。
フランスは1848年に男子普通選挙を始めた国ですが、女性参政権は遅れました。

記事の該当箇所：比べて覚える

第4部 論述問題

18 解答例：第一次世界大戦は国の人と物のすべてを動員する総力戦となり、出征した男性に代わって女性が工場などで働き、国内で戦争を支えた。参政権運動の団体も戦争に協力した。こうした女性の貢献によって反対が弱まり、イギリスでは1918年に30歳以上の女性に選挙権が認められた。

採点のポイント：①総力戦であったこと、②男性に代わる女性の労働、③運動団体の戦争協力、④反対の弱まり、⑤1918年に30歳以上の女性という条件、が入っているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／20世紀前半、論述で使える要点

19 解答例：人権宣言は人間の自由と平等をうたったが、政治的な権利は男性を前提としていた。これに対しグージュは女権宣言で女性にも同じ権利を求め、イギリスのウルストンクラフトも男女の平等を説いた。しかしナポレオン法典は妻の夫への服従を定め、女性の権利の実現は持ち越された。

採点のポイント：①人権宣言の平等と、女性が外されていたこと、②グージュの女権宣言、③ウルストンクラフト、④ナポレオン法典の妻の服従、が入っているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／フランス革命、論述で使える要点